

第 5 回安全・安心な生活のための情報通信システム研究会に参加しました (2014/6/12-13)

テーマ：情報通信、安全・安心

URL：http://www.ieice.org/ess/icsssl/

6月12日(木)～13日(金)の2日間、東北大学大学院工学研究科総合研究棟にて、電子情報通信学会・第5回安全・安心な生活のための情報通信システム研究会が開催されました。電子情報通信学会では、安全・安心な生活のための情報通信システムに関する諸技術を真に役立つ技術とするためには、各技術の研究開発だけでなく、災害時に求められる情報の在り方などの社会科学分野などとの学際的な検討が必要であることから、安全・安心な生活のための情報通信システムに関する諸技術及び社会科学分野の研究者、技術者が集まり、研究交流、情報交換、相互啓発を行い、効率の良い学際的な研究開発の促進することを目的として、「安全・安心な生活のための情報通信システム時限研究専門委員会」を設置しています。今回の研究会は、同専門委員会が企画・開催したものです。第5回の今回は、本学で行われ、学内の安全・安心領域について「情報」をキーワードの一つとして取り上げている部局である、東北大学災害科学国際研究所、東北大学通信研究機構、情報通信研究機構(NICT)耐災害ICT研究センターの後援によって行われました。当研究所からは、特別講演で越村俊一教授(災害リスク研究部門)、一般講演で佐藤源之教授(災害リスク研究部門)、中山雅晴教授(災害医学研究部門)、野内類助教(人間・社会対応研究部門)、佐藤翔輔助教(情報管理・社会連携部門)が登壇しました。なお、研究会への参加者は過去最大となり、盛大な会となりました。当研究所の各発表者の講演題目等は次の通りです：

【特別講演】

越村俊一：シミュレーション・リモートセンシング・ソーシャルセンシングの融合による津波被災地の広域被害把握

【一般講演】(発表順)

佐藤源之ら：地表設置型合成開口レーダ(GB-SAR)による地滑りモニタリングと栗原市との情報共有の実践

野内類：緊急時と平常時のリスク判断と安全判断の認知プロセスの違い—時間制限法を用いた認知心理学的検討—

佐藤翔輔ら：石巻市中心市街地における「防災行政無線の聞こえ方」調査

中山雅晴：診療情報バックアップと標準保存形式



特別講演の様子(越村教授)



一般講演の様子(佐藤源之教授)

文責：佐藤翔輔(情報管理・社会連携部門)